事例No.	2427
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	もんてこい丹生谷運営委員会

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・地域運営組織 ・関係人口

事例種類	移住・定住促進

事例内容・タイトル

ふるさと那賀町に「もんてこい」と呼びかける住民団体の取り組み

出典

平成26年度優良事例表彰一覧

徳島県那賀町

全国過疎地域
自立促進連盟会長賞

もんてこい丹生谷運営委員会

ふるさと那賀町に「もんてこい」と呼びかける住民団体の取り組み



劇中では、柚子搾り機やはんごろしが登場し、那賀町での生活をリアルに再現。「何でも自分で作る」という田舎ならではの生活の知恵を随所にちりばめている。

事例の概要

「もんてこい丹生谷運営委員会」は、過疎化・少子高齢化が進む那賀町において、この地を取材していたジャーナリストの「地元に帰ってこないなら、こっちから東京の息子のところへ押しかけて行こう」との提案がきっかけとなって、町内の有志により平成21年に設立された。

これまで、平成21年から毎年、開催地を東京、那賀町、大阪、東京と変えながら、ふるさとの良さを、ミュージカルやビデオレターなどにより町出身者を含む都市部住民へ伝える交流イベントを行っており、参加者のうち3世帯5名が帰郷移住するなど、運営委員会の活動が町の活力を取り戻すことにつながっている。

また、幅広い年齢層が一丸となって舞台を創るという経験を共有し、多世代が交流する場ができたことで、ふるさと回帰を訴えるだけでなく、町住民自身のふるさとへの愛着が一層育ち、5町村が合併して生まれた「那賀町」が本当の意味で1つになれるきっかけになっている。



殿谷加代子会長

評価のポイント

「ふるさとを離れた人に、いつの日か戻ってきてほしい。」

過疎化が進む徳島県那賀町で「もんてこい（戻ってこい）」を合言葉として、平成21年に活動を開始したのが「もんてこい丹生谷運営委員会」である。

活動の中心は住民の手づくりによるミュージカルであり、中学生から70代までの住民が参加し、脚本、演出、舞台音楽の作詞・作曲、上演の全てを住民が担っている。平成17年に5町村が合併して誕生した那賀町全域からの参加を意識しており、世代・出身地を越えた交流の場となっている。

毎年、東京や大阪で出身者を対象とした「那賀町祭」で上演し、町の魅力、田舎の暮らしの良さを、演劇を通して伝える。ミュージカルを観た人は誰もが胸を打たれ、涙を流すという。

活動を開始してから、U・Iターン含め、約50人が定住するまでになった。さらに、年に1～2回、高齢の家族に会いに戻ってくる人も増えている。定住者が増えるにつれ、仕事の場の確保が課題となってきたことから、特産品のゆずの加工場を新たに設立する動きも出てきている。

会長は2代にわたって女性であり、ミュージカルの台本を保健師が執筆、作曲は女子中学生（当時）が担っており、女性がリーダーシップをとりながら地域をまとめていることも興味深い。

このように、住民が力を合わせて地域を題材にしたミュージカルを開催することによって、那賀町の良さを再発見し、ふるさと回帰、定住者増加につなげている。多世代交流の場となっており、女性が活動の担い手であることも高く評価された。



ヘルスメイト（那賀町食生活改善推進員）手作りの郷土料理が並び、那賀町祭の参加者はふるさとの味を懐かしみ、舌鼓をうつ。



那賀町祭では地域再生塾や商工会・JAの協力のもと、物産展も開催。ゆず商品を始めとした特産品を参加者は買い求める。



月1回開催されているもんてこい丹生谷運営委員会で、現状報告や様々な課題についてしっかり協議している様子。

DATA 徳島県那賀町（なかちょう）

団体名●もんてこい丹生谷運営委員会
所在地●〒771－5411　徳島県那賀郡那賀町横石字大板35相生ふるさと交流館内
連絡先●TEL：050-8809-7807　又は0884-62-1184※（※那賀町役場企画情報課内）
FAX：050-8809-7807　又は0884-62-1177※（※那賀町役場企画情報課内）
E-mail：montekoi@whk.ne.jp　URL:http://www.montekoi.jp/

【交通のご案内】
自動車●高松自動車 鳴門ＩＣから国道55号線･195号線で約2時間
鉄　道●JR牟岐線桑野駅､桑野駅から徳島バス乗車
川口営業所バス停で乗り換え､もみじ川温泉で下車徒歩10分
飛行機●徳島阿波おどり空港から車で約2時間



▶国勢調査人口（単位：人）

昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年
23,279	14,360	11,893	10,695	9,318

▶人口増減率（単位：%）

H22/S35	H22/S55	H22/H12	H22/H17
-60.0	-35.1	-21.7	-12.9

▶高齢者・若年者比率（H22年）（単位：%）

高齢者比率（65歳以上）	若年者比率（15歳以上30歳未満）
42.4	7.4